

グローバル人材育成プログラム に参加して

乙 脇 萌 乃
Moeno OTOWAKI
物質化学科 3年

1. はじめに

私は、2016年8月15日から26日までの10日間、サンフランシスコにある Nihonmachi Little Friends (図1)にて、2週間実習をさせていただきました。今回私は実習を通じ、アメリカの教育に触れ、日本の教育に取り入れられるものを得て、将来教員になるために自分自身の教育についての考え方を見つめることをこの実習の目的として参加させていただきました。また、これまで苦手として、避けてきた英語を用いたコミュニケーションを図る中で自分自身の英語力を高めたいという思いで参加させていただきました。



図1 NIHONMACHI LITTLE FRIENDS の入り口

2. 企業概要

Nihonmachi Little Friends は、日本語・英語のバイリンガルを育てる、幼稚園～小学校就学年齢の子供のための民間、非営利のプレスクールとアフタースクールです。プレスクールは日本の保育園と同じようなもので3歳から5歳までの子供たちが朝から通ってきます。アフタースクールは日本の児童館と同じようなもので5歳から11歳までの子供たちが通ってきます。いずれもサンフランシスコの全域から、アメリカと日本という多文化の教育を提供することを目的としているため、多くの子供たちが通ってきています。

3. 研修内容

午前中はプレスクールで4歳から5歳までの子供たちと一緒にお外で遊んだり、子供たちのトイレの世話をしたり、給食を一緒に食べたりしました。子供たちの安全を一番に考え、危ないことをしてたらすぐに止め、子供たちが怪我をしないか見ていることがとてもはらはらしました。子供たちは怖いもの知らずで興味を持ったことをどんどんやってみようという気持ちを持っているようでした。

午後からは、アフタースクールで様々な年齢の子供たちと接することができ、フルーツを切ったりスナックを準備したりしました。また、子供たちと遊んだりホームワークの手伝いをしたりしました。日本語が分からない子どもに割り算を教えるのがとても難しく、英語でどのように教えればよいかわからずに苦労しましたが、わかってもらえると嬉しかったです。私は5歳から6歳の子供たちと主に接していたので、人生初のホームワークをもらった子供たちと接することができました。子供たちは始めてすぐからホームワークが嫌だと感じ、なかなか集中しながら取り組んでくれませんでした。また、子供たちがプリントに書かれていることを理解できず、なかなか進みませんでした。プリントの内容をわかりやすく伝えるために日本語が分かる子供には日本

語で簡単に説明し、日本語が分からない子供には、わかった子供に説明してもらいながら行いました。園児たちは5~6歳で甘えたい盛りですので私にたくさん甘えてくれました。しかし、ホームワークでは甘えさせては子供たちのためにはならないと思います、自分自身でできるだけ考えてできることは考えさせるようにしていました。また、園児からの質問に対しては答えを返すのではなく、自分で考えるためのヒントとなる質問を返すように気を付けていました。答えを言ってしまっは子供の考えようとする気持ちを一瞬で奪ってしまい、子供たちに考える癖がつかず、考えることが面倒だと思ってしまうと教わったからです。アメリカ、特に私の訪れたサンフランシスコはシリコンバレーが近く、IT関係の会社が多いこともあり、人とは違う発想を重んじる風土があるようにあるように思います。よって、小さいころから自分で考える癖を付けることが大切なのだと教わりました。

4. 実習を終えて

実習を終えて、私は自分自身の教育について考え方を見つめることができました。私はアメリカの教育にとっても衝撃を受け、上記に示したような生徒への接し方はとても大切だと感じました。日本への帰国後、日本の学習指導要領に、「生きる力に含まれる確かな学力」と書かれている点に着目しました。確かな学力とは、「基礎的な知識・技術を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し、解決する力」とありました。日本の教育の考え方は、まず基

礎的な知識を身につけてから、自分なりに考えるということだと読み取れました。アメリカでの教育は、自分の知りたいことについて考えながら知識や技術を習得させており、日本とは教育の方法が異なることが分かりました。言い換えれば、学習の目的を明確にしたうえで、知識を身につけるアメリカの教育と、全般的な知識をつけてから、何かの目的を設定して考えていく日本の教育に違いがあるように思います。どちらも利点、欠点があるとは思いますが、学習意欲がわき、人とは違う発想力がつきそうなのはアメリカの教育の方ではないかと感じました。

この実習では、これまで苦手と避けてきた英語を使う中で、英語は単なる勉強の科目ではなく人とコミュニケーションをとるためであることを認識し、もっと英語を用いていろいろな人と話がしてみたいと思うようになりました。また、中学生の時に学習した英語が人と話すときに特に大切だと感じました。これからはもっと英語の勉強を真剣に取り組んでいきたいと思っています。

5. おわりに

今回、グローバル人材育成プログラムに参加させていただいたことは、私の人生においてとても貴重な体験だったと感じています。2週間引き受けてくださった企業様や、企画して頂いた大学の関係者の方々、そして行くことを快く許してくれた両親に強く感謝しています。本当にありがとうございました。